



大城 節子 議員

幼児健診の視力検査について

質 3歳児までに弱視を見つけないことができれば治療が可能だということから視力検査は重要だと思えます。去る令和5年6月定例会で屈折検査機器の導入に向けて検討していきたくて答弁されたのですが、その後の経緯を伺う。

答 健康保険課長(當山 香織) 11月に購入し令和5年12月の3歳児健診から屈折検査を導入しています。

質 何名の方が受診されたのか伺う。

答 健康保険課長(當山 香織) 令和5年度は21名、令和6年度は73名が屈折検査を受けており、令和6年度3歳児健診対象者の82%が受診しています。精密検査が必要と判断されたお子様の割合は9.6%で、健診当日の結果をお知らせし医療機関への受診を促しています。



當山 直彦 議員

訪問介護事業所閉鎖による福祉問題について

質 訪問介護事業所の閉鎖問題は高齢者福祉から障がい者福祉まで多岐にわたる問題となっているため、重層的支援体制整備事業で取り組むべきものと考えているが、その支援体制を伺う。

答 福祉課長(石川 司)

包括的支援体制の構築が重要になってくると考えており、障害福祉サービスで通院していた方については、高齢者福祉事業(外出支援サービス事業)を代替サービスとして次年度4月1日から利用できるよう移行手続きを行っています。また村社協、担当ケアマネ、包括支援センターが他市町村にある訪問介護事業所へ協力依頼及び調整を行い、支援が滞ることがないように支援体制を構築しています。

提 人の情報の85%以上は目から入ると言われています。小さいときから弱視というハンディを背負わせたら本当に気の毒です。子供たちの将来のためにも弱視の治療が可能な最後のチャンスですので、保護者の皆さんに周知徹底し、多くの対象者が受診、早期発見、早期治療につながるためにも当局の働きかけをよろしくお願いします。

避難道路について

質 令和6年6月定例会で、避難道路の形状に合わせ民有地、保安林等もありますので、調査しながら前向きに整備のほうを進めていきますと断言されたのですが、その後の経緯を伺う。

答 総務課長(宮平 寛)

今、既存の保育所があるところに水路があってその周辺を活用すると上の58号まで最短距離で行けるといって、今そこを活用する方向で進めています。施工方法、施工性で地元の建設業者とも立会いをしこの施工方法を今協議しています。この用地については国道用地ですから国道事務所ともまず協議をし、その施工、やり方で問題ないか確認をした上で地元の方にも調整し整備できるような形で進めていきたいと

考えています。

仲泊南交差点の信号機について

質 仲泊南交差点は国道側の右折矢印信号は設置されていますが、県道6号線から国道側への右折矢印信号は設置されていません。県道6号線より右折する際、信号が青になってもおんなの駅からの直進車が多く、なかなか右折することができず、最悪の場合右折車は道路の中心付近まで行き、いつ事故が起こることも限りません。事故を未然に防ぐためにも右折信号を設置することで仲泊集落の渋滞も緩和されると思うのですが、当局の見解を伺う。

答 建設課長(當山 国博)

県道6号線は沖繩県中部土木事務所が所管となっています。仲泊南交差点については、県道6号線からの通行車両の大部分が右折車両で、時間帯により渋滞していることは認識しています。右折矢印信号の設置には右折専用車線や、右折待ち車両が滞留できる車線が必要で、現道路に右折専用車線はございませんので道路改修工事が必要となりま。当路線は渋滞箇所指定の要件や基準を満たしていないので、道路改修工事や右折矢印信号の設置は現段階で厳

課題解決にむけた具体的取り組みについて

質 人材確保も難しい、サービス事業所も減ってくると想定した場合『自助』『互助』の強化が必要になると考えます。

元気な高齢者が介護予防として取り組む農業。健康長寿が下位に転落した沖縄の食生活改善の観点から島野菜栽培を提案します。また認知症の方や麻痺、障がいのある高齢者でも意欲がある方、農業がしたい、働きたい方が参加できる就労環境を作り介護度の維持・向上に努めます。次に収穫した野菜を使用して料理好きな高齢者の方たちにテイクアウト用のおかずを作っていたら、地元の子育て世帯への食事支援に充てます。またあえて大量生産せず、有機栽培を徹底した野菜はホテルで観光客向けに健康長寿食として付加価値をつけて提供します。以上が私の提案する恩納村型農福連携の一事例ですがこれに対応する当局の見解を伺う。

答 農林水産課長(平安名 盛常)

高齢者が農作業をすることで身体機能の維持、向上が図られグループで行う場合にはコミュニケーションの輪が広がり、販売することで働いてい

しいと認識しています。

質 仲泊南交差点はとても危ないところですが、交差点をちよっと右折したかと思ったら、すぐ横断歩道があり一番心配なのは歩行者と接触事故を起こさないかということなんです。村長のほうからも事故が起こる前に、右折信号をつけることができるようにぜひ関係機関に要請をお願いいたします。

答 村長(長浜 善巳)

やはり危険な、また交通量の多い交差点であります。石川警察署、また中部土木事務所に要請はしており、引き続き関係機関に強く要請を行っていきます。



るといふ意識が高まり社会参加の実感湧いてくるのが期待され、また子育て世帯の負担軽減や地域の資源づくりに貢献していることで生きがいや自己肯定感が高まることを期待されます。

質 「生涯現役」をどのように捉えているのか伺う。

答 福祉課長(石川 司)

生涯現役で働き続けることではなく、生涯現役で生きていくことだと理解しています。社会との関わりを積極的に持ち、自立して自分たちの力で生きていくこと。本人の希望する環境に合った生き方が最善だと思います。

質 住民の期待に応える当局の横断的取り組みは十分機能しているか伺う。

答 村長(長浜 善巳)

全庁的な取り組みと理解しています。組織内の枠を超えて、異なる部署や職種の職員が協力して取り組むことで組織力の強化や業務効率化などが十分機能し、住民サービスに繋がることを目指します。

提 役場職員においては庁舎内部の繋がりが、また外部との繋がりを積極的に進めたい住民の声に対し、「我が事」として取り組む姿勢と、迅速な対応を心がけていただきたいと思います。



▲ヤギの飼育



▲アダン葉の作品づくり



▲海ぶどう選別

員間また職種を超えた横断的取り組みが強固なものとなれば必ず住民福祉の向上に繋がります。住みやすい恩納村を共に作っていきましょう。